

事業名	子ども委員会 TADAON ハロウィン2025
背景・目的	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども委員会の中で、今年もハロウィンのイベントの企画をしたいとの声があがる。</li> </ul> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者が季節のイベントを通じて楽しめる機会を作る。</li> <li>・来館者が子ども委員会の活動を知る機会とする。</li> <li>・子ども委員会の子どもたちが、本イベントを通じて企画力・遂行力を身につける場とする。</li> </ul>
日時	2025年10月26日(日) 午後2時～4時
実施場所	子どもセンターただON 2階ことこと・とんとん・スタジオ前
主な対象	どなたでも
参加者数	幼児 57 名、小 50 名、中 10 名、大人 60 名、子ども委員会 OG、桜美林大学生 8 名
内容	<p>「ハロウィン工作」・「ハロウィン迷路」・「ポーリング」と「フォトブース」を設置 各コーナーでスタンプをもらい、全部回ったらお菓子をプレゼント。</p> <p>桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群で社会参加(ボランティア・スタディーズ実践)を履修している学生が授業の一環で「子どもの第三の居場所」について学ぶため、子ども委員会へ参加したいとの依頼がゼミの教授からあり、準備日10月4日、18日と当日26日に子ども委員会の子どもたちと大学生 8 名と一緒に活動をした。</p>
様子等	<p>準備: 事前に子どもたちが相談しコーナーを決定後に、3グループにわかれ、大学生と一緒に準備をする。はじめは子どもたちも他の人とイベントを協力して行うことに少しとまどっていたが、準備をしていくにつれ、物怖じしないいつもの本領を発揮して、徐々に仲良くなっていた。グループによっては大学生が主導してくれるところもあったり、子ども委員の子が進めていくところもあったり、それぞれだった。</p> <p>当日: 子どもたちと大学生が仮装をしてそれぞれのコーナーを運営した。開催時間中は、途切れることなく参加者がきてくれ、仮装した幼児さんや小学生の親子がコーナーを回って楽しんでいた。ハロウィン迷路では、1 組ずつ暗がりの部屋へ案内したので、待っている人の列ができてしまったが、違うコーナーから行くように促したり、子どもたちが臨機応変に対応していた。片付けをした後は、大学生と子ども委員の子でドッジボールをして遊んだり、名残し惜しそうな姿が見られた。</p> <p>今回、お兄さんお姉さんにアイデアをもらったり力を貸してもらいながら、協力してイベントを成功させることができ、子ども委員の子どもたちも学ぶところが多く、とても良い経験になったと思う。</p>

